

視され、授業改善等で積極的に取り組んでいく必要があるだろう。全校の異年齢交流集会等でも、主体的に意見交換の場が持てるよう、毎月行っている集会や朝会においても意見交換の場を持ってみた。



今回は「あなたは今の子どもたちと昔の子どもたちと、どちらが幸せだと思いますか」というテーマで、事前に家族にインタビューし、昔の様子を多少理解した上で、比較して判断したわけだが、8：2で子どもたちは今の時代を幸せと答えていた。異年齢グループでの話し合いは、各自色カードを持ち、今派と昔派で自分の考えをどちらか表し、人の意見を聞いて考えが変わったら色を変えることで、話し合いを進めたが、インタビューの意見も含め、多様な考えがある

ことを知り今の便利さや幸せについて、いろいろ考えられたようである。また低学年児童の話し合い参加は難しいかなと心配したが、6年生司会がよく配慮し、それぞれ活発な話し合いが行われたようである。集会後の感想をいくつか紹介したい。

4年女子「今は便利な道具が増えたけれど、昔はもっと幸せの感じ方が大きかったと思いました。夏はプールはなかったけれど川などで遊んでいたし、ゲームはなくても元気に外で遊んでいたからです。すごく幸せだったと思いました。」 4年女子「今の子どもたちは何でも買えば手に入る。だけど一人でもみんなでも、作った物で遊んだ方がわくわくして楽しいかもしれない。」 6年女子「昔は伝統的な行事など大切にし、家族の団らんを楽しんでいた。何となく時間がゆったりと進んでいたからいいなと思う。」

(7) 多様な人と、ふれあいや、話を聞き質問する機会などを積極的・計画的に持ち、コミュニケーション力の育成を図る。

様々な方々から、子どもたちが学び、また会話を通してふれあいを持つことは、学びの質を高め、コミュニケーション力育成にもつながると考える。各種専門分野の方々、保護者や地域の方々と関わる機会をできるだけ多く持とうと、学校全体で取り組んできた。H29年度は2学期までに以下の方々にご協力いただいた。またこれらの活動は、地域連携教員を中心に記録をファイルし、今後の活用にも生かせるよう整備している。

総合（環境）NPO法人エコロジーオンライン、生活 野菜作り指導
 総合（地域）宮の桜、宮ネギ 栃木農業高校 音楽 リコーダー指導
 総合（国際理解）県国際交流員、総合（伝統文化）生花・水墨画・着付け・礼法・茶の湯指導
 学級活動（防災）消防団・市危機管理課、総合（地域）さしも草 公民館・かのこ庵
 国語 読み聞かせ・語り、社会（工業）もの作りキャラバン
 音楽（鑑賞）サクソ四重奏、学級活動 ダスキソおそうじ教室
 社会（歴史）戦争体験、保健（怪我の手当）栃木消防署、情報（ネットトラブル）市民生活課



左写真は11月実施の市文化会館アウトリーチ事業の渡辺実輪子さんらサクソ四重奏による音楽鑑賞会の様子だが、こうした機会も交流の機会と捉え、演奏会後にインタビューなどお話を聞く時間を設けていただいた。子どもたちからは「サクソを始めたきっかけは？」などの質問が出されたが、中には小学生の時にサクソを聴いて憧れを持ったからという演奏者もいて、将来楽器をやってみたいと希望する子も増えそうであった。こうした機会に質問や感想を述べる時間をできるだけ持つように努めたせいか、全校でも大分質問等で手を挙げる子が増えてきたように感じる。

また学習支援として、保護者やご家族の方々にも積極的に声を掛け、学習支援ボランティアとして日常的に協力をいただいている。特に写真中のように、図工（電動工具の実習）や家庭科（調理やミシン、裁縫などの実習）、生活科（野菜作り支援）など、また校外学習における引率ボランティア（地域探検や蔵の街ウォーク）など、無理のない範囲で、学級の子どもたちと関わっていただき、ふれ合いを深めていただいている。前ページ写真右は2年生活科で小グループ地域探検を行い、学区の「レンタルのニッケン」で安全についてのお話を伺っているところだが、こうした



活動もこの引率ボランティアの方々にはたいへんお世話になっている。また、校外学習や6年生修学旅行においても、グループ活動で子どもたちが主体的に人と関わり、会話や質問など、言葉を介してふれ合いができるよう、課題に沿ったグループ行動や、人とのふれ合いを積極的に取り入れている。修学旅行では、学んだ英会話を活用し、外国人観光客とのふれ合いを経験することができた。

(8) 適切なめあての設定と、定期的・計画的な振り返りを行い、めあて達成のための努力を認め て賞賛する

9月 わたしの目標	達成状況	反省
学習 100%の力で勉強し、勉強の楽しさをよく味わう。	○	100%の力で勉強し、勉強の楽しさをよく味わう。達成した。
生活 思いやりの心を持って、友達とよく遊ぶ。	○	思いやりの心を持って、友達とよく遊ぶ。達成した。
10月 わたしの目標	達成状況	反省
学習 100%の力で勉強し、勉強の楽しさをよく味わう。	○	100%の力で勉強し、勉強の楽しさをよく味わう。達成した。
生活 思いやりの心を持って、友達とよく遊ぶ。	○	思いやりの心を持って、友達とよく遊ぶ。達成した。
11月 わたしの目標	達成状況	反省
学習 100%の力で勉強し、勉強の楽しさをよく味わう。	○	100%の力で勉強し、勉強の楽しさをよく味わう。達成した。
生活 思いやりの心を持って、友達とよく遊ぶ。	○	思いやりの心を持って、友達とよく遊ぶ。達成した。
12月 わたしの目標	達成状況	反省
学習 100%の力で勉強し、勉強の楽しさをよく味わう。	○	100%の力で勉強し、勉強の楽しさをよく味わう。達成した。
生活 思いやりの心を持って、友達とよく遊ぶ。	○	思いやりの心を持って、友達とよく遊ぶ。達成した。

1月 家庭学習カード

毎朝のめあて

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

1月 漢字練習

1月 漢字練習

子どもたちが意欲的に運動・学習・生活の向上に取り組み、成長できる子を目指し、子どもたちの目標設定や定期的な評価・反省、努力の賞賛などを学校全体で行った。子どもたちの目標設定や反省は、よく学期毎に各学級単位で行うことが多いと思うが、各自の立てた目標を日々意識し努力する子は、それほど多くない印象である。そこで、学校全体で個人の目標設定や評価・反省の時間を定期的に設け（月1回朝の活動時）その達成に向け継続的な努力を励まし、意欲の向上を図った。また家庭にも協力を呼びかけ、その達成に向け励ましなどの協力をお願いした。児童のめあての反省をいくつか紹介したい。3年男子「漢字検定があるので、毎日漢字を練習します。…すごくいっぱい練習したので、漢字がじょうずになりました。」 3年女子「わたしのめあては人にやさしくすることです。そのためにあいさつをします。…やさしくするためにあいさつをすると、気持ちよくなります。」 3年女子「給食はあまり残さずに食べたいです。…このめあてを決めてから、1回も残さずに食べられました。めあてを決めると残さないんだなと思いました。」 5年女子「わたしはなわとびをがんばります。二重とびを30回とべるようになりたいです。…目標よりもっととべました。ジャンピングボードを使って43回もとべました。」

また本年度は、学習面で、家庭学習の充実にも取り組んでおり、特に

中・高学年では各自の目標や計画に沿った取組を期待して、学習指導部が作成しためあてがんばりカードを活用している。

(9) 意欲的に取り組み、自らの努力や成長が実感できる、よい達成目標の設定や紹介を行う。

めあてに向かって意欲的に努力するには、まず具体的で行動が明確化できる、よい目標設定が必要である。「勉強をがんばる」など、抽象的で、何をいつどのように達成したいのかが明確でないと、行動や努力には結びつかない。そのため、目標設定時には、できるだけよい目標設定ができるように、個々に助言・指導を担当にお願いしている。また、学校全体として、具体的目標設定できるような呼び掛け（読書冊数・縄跳び検定など）や、各種検定制度なども導入している。その1つとして、昨年度から日本漢字能力検定協会の漢字検定を学校を準会場として、任意（有料）で実施をしているが、毎回50名前後が挑戦し、受検している。漢字の読み書きだけでなく、筆順や部首、対義語や熟語など多面的な出題がされ、自主的に問題集などで勉強するなど、各級での合格を目指し、めあてを持って意欲的に取り組む子が多く見られた。1年～6年まで、そして保護者を含めた大人も受検し、学びに向かうよい雰囲気も生まれつつあると感じている。

(10) 目標に向かって、進んで体力づくりや、健康・安全な生活が送れる子を育成する。



運動や健康・安全面でも、個人差や家庭環境が大きく左右し、一律の目標設定は難しくなっている。特に生活習慣などは家庭と連携した取組が必要で、そのため、「めざせ! けんこう生活」を保健部で作成し、全校で実践している。これは家庭での睡眠・食事・歯磨きなどを自己チェックし、担任に提出するものだが、特に健康めあての設定には、個に応じた適切なめあてが立てられるよう、具体的に例示し（左図の吹き出し）、チェックが負担となったり形骸化しないよう、毎月1週間だけ強調週間と定め、家庭の協力をお願いしている。よりよい生活習慣の意識化に向け、継続して全校で行う

ことで、徐々に成果をあげつつある。

以上、本校が本年度目指す児童像育成に向けて、全校で目標を共有し、全体でまたは各部として目標達成のための具体策を策定し、実践してきた取組である。学校では教育活動の質の向上に向けて様々な取組や行事を行い、また前年度の反省をもとに新しい取組を行っていると思うが、それらが学校が目指す児童像に向けて整理・統合され、また今まで継続して行ってきた行事等も、新たなめあてに沿って内容を整理・改善することで、学校全体としての新たな特色が生まれてくるように思う。

次にこれらの取組の成果を検証し、次年度の改善に向け、どのように生かせるか、学校評価の結果とその後の話合いの様子をまとめてみたい。

7 学校評価から考える

学校評価の目的は、次のように明記されている。「各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。」つまり目標達成に向けた取組を評価し、改善につなげることをねらいとしている。その評価手順や評価項目、生かし方は各学校によって多少様々ではあるが、本校に於いては学校が次年度どのような教育を重点に取組を行っていくかの大切な基本資料であると考えている。本年度の学校評価のまとめと改善に向けた話合いは、以下のように行

った。

- 1 教育活動や児童の学習・生活・運動等について、50項目を、保護者・児童・職員から学校評価アンケートとして、4段階で評価。各平均を比較し、取組の適切さや課題を判断。また学校・保護者・児童の評価のずれ（同項目で一方は高評価でも一方は低評価など）を検証。



- 2 上記結果をふまえて、本年度目指す児童像とその達成のための各重点的取組状況を、職員で自己評価。目指す児童像については3段階で、重点的取組は全て文章表記で評価を記入。文章表記は具体的な成果と課題、改善案を記入。

教育目標 2 **よく考え勉強する子ども**

目指す児童像

【2.3】2位/4 人と積極的に関わり、考えを広めたり深めたりし、学び合いができる子

- 積極的に関わる様子は以前より見られるようになった。(見学時の質問や、ふるさと交流学習での話し合い等)
- この目指す児童像で継続して指導していくと良いと思います。
- 学校規模を最大限に生かした児童像だと思う。
- 以前に比べ、大勢の前で自信をもって意見を述べられるようになった子が増えたと思います。学級でも簡単な間には挙手をして発言できる子が多く見られます。ただ、伝え方はまだ不十分かなと思います。
- ▲ 現行の言葉に是非「家庭学習ができる子」の文言を入れ、重点的取組としたい。学校評価アンケート教員ワースト6、保護者ワースト3、児童ワースト6。
- ▲ 学校課題とも大きな関連があるし、思いを伝え合うということも常に投げかけているが、現段階では、学習の基礎基本を定着させることに時間を割いている。クラスの学力は全体的に上がっているとの手応えはある。
- ★ ②と⑤の重点項目をあわせて授業を中心に組織で焦点を定めたい。

重点的取組

【2.9】① 音読や暗唱など、相手に伝わるよう、人前で声を出す機会を積極的・計画的に持つ。

1位/15

- ランチルームでの発表は、伝統になるまで続けたいと思う。
- ランチルームで全校児童の前で全員が発表する機会を得られたことは、子供たちの自信に繋がったと思う。
- 人前で声を出す取組はとても良いと思う。皆はきはき声を出せるようになったし、自然にがんばりを認められる。
- 人前に立つ機会を意図的に設けてきたので、少しずつ児童の自信につながっているように思います。
- 給食時の暗唱ではほぼ全員が人前に出る経験をし、大勢の人前で話すことで自信にもつながったと思う。
- 音読集会や暗唱カードなど定着し、担任以外と接すること、音読、暗唱することが自信をもってできるようになってきた。
- 音読発表は、皆が挑戦することで、自信を持って取り組むことができた。
- クラスでは目標達成が半数にとどまったが、特に低学年では、記憶力・積極性がまずなどの大きな成果が見える。指導者の意図的な仕掛けが生かされたケースである。
- 声を出す機会が習慣化したことにより、意識は高まったように思える。
- 人前で声を出す機会、人と話す機会、自分の考えを述べる機会を意図的に多く持つことで、子供たちも慣れたり自信を持ったりできるのだと実感しました。今後も継続し一人一人の力を伸ばしていけると良いと思います。
- カードを利用して、前職員で詩の暗唱を聞き褒めることが子どもの自信につながりました。高学年も頑張っていたことが良かったです。

【2.6】② 発表したり、意見・質問を述べたりする機会を、積極的・計画的に持つ。

3位/15

- 集会等で感想を求める場面が増え、いやがらずに言えるようになってきた。
- どんな意見でも発表できる雰囲気作りができてきて、良かったと思います。
- どの学年も以前より発表・質問など積極的に行うようになった
- 本を読むことで、考えが深まった、広まったという経験をさせたい。
- 保健委員が給食時に姿勢・マナーチェックについて自分の言葉で気がついたこと等伝えていく。
- ▲ 学校生活の中心は授業であり、まずは授業で充実させるべきである。日本の伝統には生活綴り方学習や戦後の問題解決学習等、目標にすべきものがたくさんある。まずは教員一人一人の授業の中で、どういうイメージでこの項目がとらえられているか、意見交換をしたり、目標のレベルをそろえるなどしたい。学校評価アンケート教員ワースト6、保護者ワースト3、児童ワースト3。
- ▲ さらに、いろいろな子も発表できると良いと思います。

【2.4】③ ICT機器等を積極的に活用したりし、学んだことや調べたことを意欲的・効果的に伝えるプレゼンテーション力を育成する。

7位/15

- iPadが使用できるようになり、教師として授業に生かすことができました。
- iPadの導入により、プレゼンしやすくなり、中学年などでも簡単なプレゼンが出来るようになってきているよう感じる。

左資料は、本年度目指す児童像「人と積極的に関わり考えを広めたり深めたりし、学び合いができる子」の評価であるが、児童像達成は 2.3 / 3であり、成果は大分見られるが、更に家庭学習や授業での積極的な取組を今後の課題として挙げている。

また各重点的取組の評価では、①の「音読や暗唱など、相手に伝わるよう、人前で声を出す機会を積極的・計画的に持つ」が 2.9 で、本年度最も成果があったと評価され、②の「発表したり、意見・質問を述べたりする機会を、積極的・計画的に持つ」も 2.6 と成果が実感された項目

- iPadを使用して学習することができた。教師が進んで活用することが児童の興味関心を高めることができると思う。
- 今年度新たに4台購入し取り組みに対する環境が整い、あらゆる場面で活用する機会が増えた。来年度さらに4台導入予定であり、よりいっそうのプレゼンテーション力育成ができると思う。
- ICT機器を活用することで、これまで以上に容易にプレゼンを行うことができるようになってきているので、今後も教師側がうまく取り入れてほしい。
- ▲ iPadなど先生レベルでは活用スキルと機会が増えた。台数・環境を整備し、子ども自身が使いこなせるよう推進すると良い。
- ▲ まずは教員がiPad等を積極的に活用するよう努力することが先。iPadのみならずホームページアップ作業も個人差が大きいのが課題。
- ▲ ICTは使うようになってきたと思うが、プレゼンテーション力に結びついているかどうかは分からない。
- ▲ ICT機器の活用も含めて、さらに課題解決的な学習を工夫していくと良いと思います。
- ▲ さらに児童が使えるように低学年からもiPadの指導をしていきたいです。
- ▲ ICT機器の活用はプレゼンテーションを効果的に行うには良いが、内容を深めることには直接結びついてはいない。物事を究めればそれを伝えようとする気持ちは自然に高まっていく。内容を深めるには、そこに時間をかけなくてはならない。発表のための資料づくりや練習に多大な時間をかけすぎでは、肝心の内容がおろそかにならないだろうか。

【2.5】④ 授業や集会等様々な機会に意見交換や学び合いなどに場を設け、主体的・協働的に課題を解決する力を育成する。

- 5位/15
- 校長先生の集会での議題により、様々な意見があること、自分の意見をもつこと、他の意見を聞くことができる良い機会を得られていると思う。
 - 小グループで意見交換をする場面(集会等)が増えたので、積極的に取り組めるようになってきた。上級生が上手に司会をしている。
 - 朝会では身近なテーマにたいし議論することで自分の意見を述べ考えを持つこと、相手の意見を聞き様々な価値観があることを知る場が提供されている。
 - 朝会等でも話し合う機会が増えたので、学級での話し合い活動もスムーズに出来た。
 - 集会等での話し合いでは、どの児童も自分の意見を話すことができるが多かった。話し合いの仕方に慣れてきている。意図的に自分の考えを明確にする場の設定は有効であったと思う。
 - ▲ 各担当が行う集会について、話し合う機会を作ることを意図的に主体的に考えなければならぬと思う。校長先生が先頭に立ち実践しているが担当レベルは差があると思う。
 - ▲ 児童の学び合いのためにグループでの話し合いの時間を意図的に授業に取り入れてきました。さらに話し合いの目的や深め合いの仕方などの指導も必要です。
 - ▲ グループ活動、異年齢集会などで今後も児童同士意見交換、話し合いの機会を積極的に持てる必要がある。
 - ▲ 研究授業等でも、本視点で授業を組み立て、研修・研究していくとよい。

【2.4】⑤ 多様な人と、ふれあいや、話を聞き質問する機会など積極的・計画的に持ち、コミュニケーション力の育成を図る。

- 9位/15
- 地域の方や幼稚園児、高校生らと接する中で子供たちの成長が見られた。
 - 修学旅行・校外学習・ふるさと交流学習・アシストネットを通し多様な人と交流する機会がある、単学級という強みを生かしていると思います。
 - 外国の方へのインタビューはこれから生きていく上で、良い経験になったと思う。
 - 総合・社会・授業等で外部人材活用が推進された。今後も受け身で話を聞くだけでなく、コミュニケーションの視点で感想・質問などにより学びができると思う。
 - 防災の研究授業でゲストティーチャーの話を聞いて子供たちは感銘を受けていた。専門家の話は身に迫る。そういうスキルを我々も身につけたい。
 - ボランティアティーチャーや地域の方、校外学習等で出会った方々等と積極的にコミュニケーションをとる姿が見られた。
 - ▲ 今年度の様々な取組を次年度にスムーズに引き継ぎたい。
 - ▲ 総合学習でたくさん体験学習やボランティアティーチャーを呼ぶことができ、ふれあう機会は多く持った。コミュニケーション力の育成までにはいたっていない。個人差がある。

だった。課題として指導者の指導力や意識の差を挙げ、発表や意見交換などのレベル(単なる発表ではなく、討論や練り合いなどより高度な学び合いに向けて)を話合ってみたらと言う提案もあった。

課題▲が多く寄せられたのは、③の「ICT機器を活用したりしたプレゼンテーション力育成」で、取組の成果と共に、今後の環境整備や教員のスキル向上、低学年からの段階的取組、学習内容の工夫など、今後に向けての改善や提案などが寄せられた。

文章表記の評価は、負担が大きく、個人の意見が大きく扱われる場合があるなど、注意深く扱う必要はあるが、具体的成果や課題を確認でき、また改善に向けての資料となる意見も多く、利用目的によっては貴重な資料となるように思う。



3 上記1と2の資料から、学校運営協議会委員より学校関係者評価をいただく。

目指す児童像への取組とその成果を認めていただいた上で、更に次年度の課題として、①学校と家庭・地域とのより積極的な連携と交流 ②児童の発表やプレゼンテーション力の充実 ③中学進学に向けた小中のギャップ解消 ④職員の質の向上(相互信頼関係の重視、言葉遣いなど) 等が意見として挙げられた。



4 今までの評価結果をふまえた、次年度重点的取組内容策定に向けての話合い